



2014年(平成26年)10月29日(水) NO 79号

# K-PURO NEWS






## 【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	<a href="http://www.k-puro.co.jp">http://www.k-puro.co.jp</a>
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県川口市芝塚原 2-3-11 エステートミア	TEL 048-261-3412
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

## 【業務内容】

	機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
	防犯カメラ事業	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
	メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

## 【加盟団体】

	RID2770	川口モーニングロータリークラブ	<a href="http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/">http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/</a>
	NPO 法人	さいたま起業家協議会	<a href="http://www.saitama-kk.org/">http://www.saitama-kk.org/</a>
	公益社団法人	千葉東法人会青年部	<a href="http://www.chibahojin.jp/">http://www.chibahojin.jp/</a>
	一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	<a href="http://www.rinri-chiba.org/">http://www.rinri-chiba.org/</a>
	公益財団法人	モラロジー研究所	<a href="http://www.moralogy.jp/">http://www.moralogy.jp/</a>

## 【応援団体企業】

		
知財の"日の出"を演出します!		
		

## ごあいさつ

竹に節目があるように、人それぞれの人生にも節目があります。

私は 40 歳で独立をし、弊社は来年 3 月で満 10 年を迎えます。

お客様と、深く永いお付き合いがしたいと立ち上げたケイプロですが、現在では本当に良いお客様に恵まれました。

独立して良かったと、心からそう思います。

10 年前は、自分本位で自分のことしか考えていませんでしたが、良いお客様や良い仲間と出会い、語らうち、人のために役立ちたいという考え方に、いつしか変わっている自分に気づきました。ロータリークラブの奉仕の精神、モラロジーの道徳科学などの勉強をしていると、人はどう生きていくべきかを日々学ばせてもらえます。

富士山で言えば、まだまだ五合目の半分に到達したに過ぎませんが、今までの経験を尊重しつつ、ゆっくりと、尚且つ力強く、ギアを入れ替え頂上を目指して行きたいと思えます。

どんな事でも、どんな困難でも、必ず克服出来ると自分に言い聞かせながら・・・。

代表取締役 木戸 良樹

## 今月の良い話 レジ打ちの直子

直子は、何をしても続かない子だった。  
田舎から東京の大学に来て、部活やサークルに入ったのは良いのだが、すぐにイヤになって次々と所属を変えていくような子だった。そんな彼女にも、やがて就職の時期がやってきた。  
最初、直子はメーカー系の企業に就職した。ところが仕事が続かない。  
勤め始めて3ヵ月もしないうちに上司と衝突し、あつという間にやめてしまった。  
次に選んだ就職先は、物流の会社だ。  
しかし、入ってみて自分が予想していた仕事とは違うという理由で、やはり半年ほどでやめてしまった。  
その次に入った会社は、医療事務の仕事だった。  
しかしそれも「やはりこの仕事じゃない」と言ってやめてしまう。  
そうしたことをくり返しているうち、いつしか彼女の履歴書には、入社と退社の経歴がズラッと並ぶようになった。すると、そういう内容の履歴書では、正社員に雇ってくれる会社がなくなってきた。  
ついに、彼女はどこへ行っても正社員として採用してもらえなくなった。  
だからといって生活のためには働かないわけにはいかない。  
田舎の両親は早く帰って来いと言ってくれる。しかし、負け犬のようで帰りたくはなかった。  
結局、直子は派遣社員に登録した。  
ところが、その派遣も勤まらなかった。  
すぐに派遣先の社員とトラブルを起こし、イヤなことがあればその仕事をやめてしまう・・・。  
彼女の履歴書には、やめた派遣先のリストが長々と追加されていった。

ある日のこと。  
例によって「自分には合わない」などと言って派遣先をやめてしまった彼女に、新しい仕事先の紹介が届いた。  
それは、スーパーでレジを打つ仕事だった。  
当時は、読み取りセンサーに商品をかざせば値段が入力できる、今のよう  
なレジスターではない。  
値段をいちいちキーボードで打ち込まなくてはならず、多少はタイピング  
の訓練を必要とする仕事であった。  
ところが、勤めて1週間もするうち、直子はレジ打ちにあきてしまった。  
ある程度仕事に慣れてきて「私はこんな簡単な作業のためにいるのではない」と考え出した。  
その時、今までさんざん転々としてきながらそれでも我慢の続かない自分が、直子自身も嫌いになっていた。  
もっと頑張らなければ、もっと耐えなければダメということは本人にもわかっていた。  
しかし、どうがんばっても、なぜか続かない。  
もつとがんばるか、それとも田舎に帰ろうか・・・。  
するとそこへ、お母さんから電話がかかってきた。  
また田舎に帰ってくるよう促され、これで迷いが吹っ切れた。  
直子は、アパートを引き払ったらその足で辞表を出し、田舎に戻るつもりで部屋を片づけ始めた。  
長い東京生活で、荷物の量はかなりなものだった。  
あれこれダンボールに詰めていると、机の引き出しの奥から手帳が出てきた。  
小さい頃に書きつづった自分の大切な日記・・・。  
なくなって探していたものだった。  
そして日記をパラパラとめくっているうち、直子は「私はピアニストになりたい」と書かれているページを  
発見した。そう、彼女の小学校時代の夢・・・。  
「そうだ。あの頃私は、ピアニストになりたいたくて練習をがんばっていたっけ」と、直子はあの時を思い出した。  
しかも、ピアノの稽古だけは長く続いていたのだった。  
けれども、いつの間にかピアニストの夢はあきらめていた。  
直子は、心から夢を追いかけていた自分を思い出し、日記を見つめたまま本当に情けなくなった。  
「あんなに希望に燃えていた自分が今はどうだろうか。履歴書にはやめてきた会社がいくつも並ぶだけ。  
自分が悪いのはわかっているけど、なんて情けないんだろう。そして私は、また今の仕事から逃げようとして  
いる・・・。」  
直子は静かに日記を閉じ、泣きながらお母さんに電話した。  
「お母さん、私、もう少しここで頑張る・・・。」  
直子は用意していた辞表を破り、翌日もあの単調なレジ打ちの仕事をするために、スーパーへ出勤して行  
った。  
ところが「2、3日でもいいから」と頑張っていた彼女に、ふとある考えが浮かんだ・・・。



「私は昔、ピアノの練習中に何度も何度も弾き間違えたけど、くり返し弾いているうちに、どのキーがどこにあるかを指が覚えていた。そうになったら鍵盤を見ずに、楽譜を見るだけで弾けるようになった」

直子は昔を思い出し、心に決めた。

「そうだ、私は私流にレジ打ちを極めてみよう」と。

レジは商品ごとに打つボタンがたくさんある。

直子は、まずそれらの配置をすべて頭に叩き込むことにした。覚え込んだら、あとは打つ練習・・・。

ピアノを弾くような気持ちでレジを打ち始めた。

そして数日のうちに、ものすごいスピードでレジが打てるようになった。

すると不思議なことに、それまでレジのボタンだけ見ていた彼女が、今まで見もしなかったところへ目がいくようになった。



最初に目に映ったのはお客さんの様子だった。

「ああ、あのお客さん、昨日も来ていたな」「ちょうどこの時間になったら子ども連れで来るんだ」とか、いろいろなことが見えるようになった。それは、直子のひそかな楽しみにもなった。

相変わらず指はピアニストのように、ボタンの上を飛び交う。

そうしていろいろなお客さんを見ているうちに、今度はお客さんの行動パターンやクセに気づいてきた。

「この人は安売りのものばかり買う」とか、「この人はいつも店を閉める間際に来る」とか、

「この人は高いものしか買わない」とかがわかる。

そんなある日、いつも期限切れ間近の安い物ばかり買うおばあちゃんが、5000円もする尾頭付きの立派な鯛をカゴに入れてレジへ持ってきた。直子はビックリして、思わずおばあちゃんに話しかけた。

「今日は何かいことがあったんですか？」

おばあちゃんは直子に、にっこりと顔を向けて言った。

「孫がね、水泳の賞を取ったんだよ。今日はその祝いなんだよ。いいだろう、この鯛！」

「いいですね。おめでとうございます」

うれしくなった直子の口から、自然な言葉が飛び出した。

お客さんとコミュニケーションをとることが楽しくなったのは、これがきっかけだった。

いつしか彼女は、レジに来るお客さんの顔をすっかり覚えてしまい、名前まで一致するようになっていた。

「〇〇さん、今日はこのチョコレートですか。でも今日はあちらにもっと安いチョコレートが出てますよ」

「今日はマグロよりカツオのほうがいいわよ」などと言ってあげるようになった。

レジに並んでいたお客さんも応える。

「いいこと言ってくれたわ。今から替えてくるわ」

そう言ってコミュニケーションをとり始めた。直子はだんだんその仕事楽しくなってきた。

そんなある日のこと。

「今日はすごく忙しい」と思いながら、彼女はいつものようにお客さんとの会話を楽しまつつレジを打っていた。すると店内放送が響く・・・。

「本日は大変に混みあいまして申し訳ございません。どうぞ空いているレジにお回りください」

ところが、わずかな間をおいて、また放送が入る。

「本日は混み合いまして大変申し訳ありません。重ねて申し上げますが、どうぞ空いているレジのほうへお回りください」

そして3回目、同じ放送が聞こえてきた時に、はじめて彼女はおかしいと気づいた。

そして、ふと周りを見渡して驚いた。

どうしたとか、5つのレジが全部空いているのに、お客さんは自分のレジにしか並んでいなかったのだ。

店長があわてて駆け寄ってきた。

そして、お客さんに「どうぞ空いているあちらのレジへお回りください」と言ったその時だった。

お客さんは店長の手を振りほどいてこう言った。

「放つといてちょうだい。私はここへ買い物に来てるんじゃない。あの人としゃべりに来てるんだ。だからこのレジじゃないとイヤなんだ！」

その瞬間、直子はワッと泣き崩れた。

その姿を見て、別のお客さんが店長に言った。

「そうそう・・・。私たちはこの人と話をするのが楽しみで来てるんだよ。

今日の特売はほかのスーパーでもやってるよ。

だけど私はこのお姉さんと話をするためにここへ来ているんだ。だからこのレジに並ばせておくれよ！」

直子はポロポロと泣き崩れたままレジを打つことができなかった・・・。

はじめて、仕事というのはこれほど素晴らしいものなのだと気づいた。

そう・・・。すでに直子は、昔の自分ではなくなっていた。



## 事件ファイル NO79 ちびっこギャング団

日時 平成 26 年 10 月 19 日(日)19 時 20 分ごろ

場所 さいたま市大宮区三橋 周辺

内容 中学生および高校生と見られるグループ 5 人組が自転車で徘徊し、大人に因縁をつけ、金品を要求する恐喝紛いのことを行っている。

本マンション居住者方の被害は幸いなかったが、同日に同グループと見られる集団に暴行を受けた被害者の方もいた。近隣の方は十分ご注意ください。

万が一、声掛けに遭った場合は、応じずにそのままやり過ごすか、勇気ある方は彼らにきちんとこれらの行為が間違っているということを真摯に問い質してあげて下さい。



## プロ太の小話集 NO79 『 罪と罰 』

事件から数年後、児童自立支援施設から卒業した長崎幼児殺人事件の少年は、名前を変え、見知らぬ地で就職。そこで知り合った気立てのやさしい娘と結婚したのだった。

あの事件はとうに人々の記憶から薄れ、彼本人でさえ殆ど思い出すことすらなくなっていた。

やがて彼は父親となり、裕福ではなくとも妻と息子と三人の幸せな毎日を過ごしていた。

息子の4歳の誕生日。父親は息子を連れて町の大型家電量販店に出かけた。

そこで前から欲しがっていたゲーム機を買ってもらった息子は、大はしゃぎしながら立体駐車場に駐めた車に向かって走っていった。

半分息を切らせ、半分苦笑しながら父親がようやく息子に追いつくと、息子は振り返って、優しいパパの目を見つめてこう言った。



「こんどはおとさないでね・・・」

////////////////////////////////////

今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

子どもたちの非行や引きこもりは親の責任だと言われます。

不登校専門の学校で校長を務める後藤先生は、「ここに来る生徒のほとんどが、親同士の仲があまり良くないんだよ・・・。」と言われます。

周辺環境など様々な要因があるとは思いますが、最後の心のブレーキは「親の愛情」だと感じます。

今回の事件は、あの少年たちに「何がそうさせているのか」を考えなくてはなりません。

もし、私自信が声掛けに遭ったら、少し怖いですが、後者を選択したいと思います。

注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です。(体長 10メートル・体重 1トン・無敵無敗)